

また、九州医療センター 阿南 誠先生の‘診療情報管理士の置かれた現状’についてのシンポジウムは、現在・今後の医療経営には診療情報管理士は欠かせない存在であるという事が再認識されたものでした。

学術総会最後には市民公開講座としてロバート キャンベル先生に伝統ある日本の素晴らしさを‘言葉’を介して話して頂きました。聴衆は会員と市民が概略半数程度の割合でしたが、720名収容の会場は立ち見の方であふれる程でした。

今回の学術総会は少し‘岡山’‘岡山の病院’にこだわってみました。当日運営のほとんどは岡山県下の病院職員で対応しました。また、企画して頂いたシンポジウムには演者として、更に一般演題の座長としても岡山県下の医療関係者に多く入って頂きました。学術総会前日の理事会は倉敷の大原美術館内で行いました。また、会員懇親会は第1日の夕方、ホテルグランヴィア岡山で行い、500名を超える多くの参加がありました。岡山医療センターの関係者が趣向をこらした、‘出し物’と岡山地産地消の料理・お酒で歓迎させて頂きました。結果的には参加者は事前登録で11%が岡山県内であり、当日参加を入れると最終的には15%程度が岡山県内の参加者になったのではないかと推測しています。

その他、従来のランチョンセミナー、モーニングセミナー以外にティータイムセミナーを入れさせて頂きました。午後3時頃からコーヒーと岡山の美味しいクッキーを味わいながらのセミナーでしたが、どの会場も満席で好評でした。

また、出来るだけ抄録集の重さを下げるため、文字を小さく、配列を詰め、紙の質を変えるなどの努力をさせて頂きました。広告掲載、報告事項、読みとれる文字サイズの限界などの壁が有り、思った程軽くなかなかしたのは少し残念に思っています。

学術総会終了後、多くの会員の方々から、文書・口答で好意的な評価を頂いた事、大変嬉しく思っています。

最後になりましたが、全国各地からお越し頂いた参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。また、企画から運営に至るまで学会役員並びに会員の皆様にご指導御協力を頂きました事に心より感謝致します。また、学術総会運営に協力頂いた、岡山医療センターの職員、岡山県下の各病院の職員の皆様方に厚く感謝申し上げます。

日本医療マネジメント学会の益々の発展と皆様の活躍を祈念し、第16回日本医療マネジメント学会学術総会の開催報告とさせて頂きます。来年は大阪にて皆様とお会い出来る事を楽しみにしています。有り難う御座いました。

第14回日本医療マネジメント学会学術総会会長賞を受賞して 国立病院機構呉医療センター 川本俊治

このたびは学術総会会長賞という荣誉ある賞を頂き、第14回日本医療マネジメント学会学術総会の江口勝美会長、本学会の宮崎久義理事長ならびに関係者の皆様から御礼申し上げます。



第14回学術総会会長賞を授与される
川本俊治氏

今回、表彰を頂いた論文は「虚血性心疾患・地域連携クリティカルパス使用がかかりつけ医の患者指導に及ぼす効果」でした。これは呉市医師会の協力を得てアンケート調査を行い、地域連携クリティ

カルパスを使った急性期病院とかかりつけ医との間の情報共有が患者指導に変化を及ぼすかを検証したものです。

高齢化、多死社会を迎えるに本邦の医療提供体制は、従来の急性期病院単独完結型から地域完結型への変更を強く求められています。特に高齢者は主疾患だけでなく、併存症を多く合併しており、それらに対応するには疾患毎の達成目標を明確にする必要があります。特に虚血性心疾患は二次予防のための到達目標が明確にされており、目標を達成するために服薬、食事、運動の生活指導、また緊急時対応指導など具体的な記載が循環器領域の地域連携クリティカルパスには必要となります。

虚血性心疾患の地域連携クリティカルパスの目的は虚血性心疾患の二次再発予防であり、このために薬物療法だけでなく、多岐に亘る指導法の実践が重要であり、これらの項目が地域連携クリティカルパスに掲載され、時系列表示が患者指導にも有効と考えられます。さらには患者への指導内容が急性期病院とかかりつけ医で齟齬が無く、共通でなくてはなりません。地域連携クリティカルパスは患者指導だけでなくかかりつけ医の指導ツールとしても重要であり、クリティカルパスの広報だけでなく、クリティカルパスを使った患者の生活習慣指導法を今後益々充実させていく必要があります。どのような患者指導アプローチが有効なのかはまだ不明な点も多いので、今後研究を推し進めていく必要があります。

今回の受賞を励みとして、地域医療の質向上、疾病管理の質向上に今後とも努力していきたいと思えます。

第14回日本医療マネジメント学会学術総会会長賞を受賞して 国際医療福祉大学 加藤尚子



第14回学術総会会長賞を授与される
加藤尚子氏・大久保一郎氏

この度は、学術総会会長賞という荣誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。第14回学術総会会長の江口勝美先生、学会理事長の宮崎久義先生、そして関係の皆様にお礼申し上げます。

私どもの論文は、第14回学術総会にて発表した内容を、「病院機能分化施策に応じた私的病院の変遷について－福岡県私設病院を対象とした1998年・2012年の繰り返し